

シアトル インターンシップ報告書

環境人間学部 2年

東谷果歩

期間：平成 31年 2月 17日～ 3月 16日

● インターンシップの研修内容

<Bellevue Children's Academy>

- ・ シアトル熱中小学校※に向けての準備
- ・ 書類などの整理
- ・ 生徒情報のパソコンへの入力作業
- ・ 問題の解答作成

※熱中小学校とは、全国で活躍する起業家、経営者、音楽家などが先生となって大人の教育の場と交流の場を設ける取り組み。2015年に山形県高畠町で始まり、2019年2月にシアトルにも開校した。

<兵庫県ワシントン州事務所>

- ・ Sakura-Conのパネルづくり
- ・ 日本文の英訳
- ・ Speech & Skit contestの準備（参加証明書の作成）

● インターンシップで必要な英語力・スキル

私がインターンシップをしたベルビュー・チルドレンズ・アカデミーと兵庫県ワシントン州事務所は両方とも日本人の方が働いていて日本語を使える環境であったため、インターンシップには高いレベルの英語力は必要ありませんでした。また、スキルについてはどちらの場所でもパソコンを使うことが多かったため基本的なパソコンの操作に加えて、様々な機能を知っていると役立つと思いました。その他に、自分がそのインターンシップ先に必要な特別なスキルを持っている場合はそれを活用することができたのかもしれませんが、特



にそのようなスキルがなかったとしても、インターンシップでは自分が知らなかったことや、してみたいと思っていることを体験して自分の視野を広げることが大切だと思いました。

ホストファミリーと話すときや店で買い物をするときには、日常会話の英語が必要でした。私は日本では英語の文章を読むことはあっても英語のネイティブスピーカーと話すことがほとんどなかったため、相手の話に相槌を打ったり、反応するときには何と言ったらいいのかわからず、困ることがありました。そのような語彙は渡米する前にアメリカの映画やドラマを見るなどして習得しておくことでスムーズに使うことができたのかなと思いました。

● インターンシップで得たこと

インターンシップをすることで、普段の生活では見ることができないような働く方の姿を実際に見ながら自分も一緒にその環境で過ごすことができ、将来働くことに対するイメージが具体的になりました。インターンシップ先で自分にできることは少なかったですが、忙しそうに働いている方の姿を見ることで、働くことの大変さを感じました。それでも、生き生きとした様子で働いている方が多く、自分もそのように楽しんでできる仕事を見つけたいと思いました。また、様々な人の話を聞いたり、働き方を見たりすることで大学を卒業してからは皆が同じような道を進んでいくのではなく、たくさんの選択肢があるということも感じました。海外で働くことにも興味があったのでアメリカで働く様々な日本人の姿を見ることができて良かったです。

また、このプログラムは団体で参加する研修などとは異なり、基本的には一人で行動することが多かったため、自分自身の行動に責任を持って知らない土地で安全に生活する自信をつけることができました。



● 印象に残ったこと

シアトルでの生活で印象に残ったことはたくさんありますが、ホームステイ先やバス、店では日本との違いを感じました。日本とアメリカの文化の違いについては聞いたことがあるものも多かったですが、実際に体験することでより強く印象に残りました。まず、バスでは乗るときの挨拶などの一言の会話でもしっかりと相手の目を見て話していることが印象的でした。日本では会釈だけで済ませることも多く、あまり相手の目をじっくり見るこ

とはないと思いました。店で買い物をするときには、だいたい“How are you?”と聞かれ、何か答える必要がありました。日本ではその代わりに「いらっしゃいませ」と言われることが多いと思いますが、これに対しては何か返事をするわけではないのでそのような会話は日本にはない文化だと思いました。また、シアトルで生活しているときにはあまり気になりませんでしたが、日本に帰るとそれまでずっと使っていたはずの自分のコップやいすがとても小さく感じ、ホームステイ先にあったものはどれも日本のものより大きかったということに気がつきました。

ホームステイ先では自分以外にもホームステイをしている学生が2人いて、一緒に話すことができたのは良かったです。1人はワシントン大学に通っている中国人の学生で、もう一人は語学留学をしている日本人の学生でしたが、大学の話やお互いの国についての話ができて面白かったです。

● インターンシップが今後どう活かされていくか

インターンシップを通して学んだことはこれからの進路を考える上で参考にしていきたいと思いました。この4週間で、普段の生活では出会うことがないような方々とお話することができ、自分の視野が広がりました。また、自分の英語やアメリカに対する気持ちを認識することができました。そのようなことも踏まえて、自分の好きなことを大切にしていこうと思います。

● 後輩たちへのメッセージ

このインターンシッププログラムは自分で決められることが多いので、自分がやりたいと思うことに積極的に挑戦すると良いと思います。したいことが具体的にない人でも普段の日常とは全く異なる環境で約1か月過ごすことで、多くのことを考えたり、感じたりすることができ、とても貴重な経験ができると思います。不安になることもあると思いますが、それ以上にたくさんのが得られると思うのでぜひ挑戦してみてください。

